

ふれあい

高花平小学校 学校だより

No. 26

平成 27(2015)年 3月-2

☎高花平小 320-2074, 321-3040

1/25 **発表のつどい** (四郷地区人権協主催)

～こんな発表でした。子どもたちは、考えています。(そのⅠ)

「思いやる心」 6年 平野りよ

私は、5年生の12月に脊髄の手術をしました。そのときに、できないことがたくさんありました。着替えができなかったり、落としたものが拾えなかったり、くつ下すらもはけませんでした。当然、周りの人に助けてもらいました。私は、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。迷惑をかけていると思いました。

手術を受ける前のある日、病院の通路で、大きな車いすに乗っているおじいさんがいました。それほど広くない通路を通ろうとしていたので、道を開けなければなりません。そこにいた人たちが道を開け、おじいさんが私の前を通った時、「少し邪魔だな」と思ってしまいました。中には、嫌そうな顔をしている人もいました。そんな中をおじいさんは、「すみません」と頭をさげながら通り抜けて行きました。そのときのおじいさんの表情を見て、私は初めて気づいたのです。自分は、とてもひどいことをしてしまったと。そして、こんなふうになることが、しょう患者差別につながるのではないかと。

私が退院した後の家の中や学校での生活は、予想以上に大変でした。でも、私が助けを必要としたとき、たくさんの方が手を差し伸べてくれました。家族だけでなく、先生やクラスの友達もです。「大丈夫？」と、心配してくれたり、一緒にゆっくり歩いてくれたり、荷物を持ってくれたりしてくれました。誰一人として、嫌な顔をせずに、いろんなことをしてくれました。それは、私にとって、とてもうれしいことでした。今も体が思うように動かないし、つらいこともあります。でも、私にとって、この1年余りの経験は、とても貴重な経験で、「しょう患者差別をしてはならない」ということの意味を、より深く理解できたような気がします。

街中で、盲目と思われる女性が、白い杖をつきながら歩いていました。近くを歩いていた人の多くが、その女性をじろじろ見ていました。また、わざと視線をそらせる人もいました。中には、「しょう患者だ」とか、「うわあ」という声も聞こえ、馬鹿にしたように笑う人までいました。その周りにいた大人の人たちの誰一人として、注意をしている様子はありませんでした。この場面を見ていて、私は、正直なところがく然としました。世の中には、しょう患者を励ましたり、気づかたり助けたりする人たちはたくさんいます。しかし、しょう患者差別は、まだまだあるのが現実なのです。

しょう患者差別がなくならないのは、しょう患者のことがよく分かっていないからだと思います。分かっていないから、じろじろ見たり、馬鹿にしたように笑ったりするのではないのでしょうか。しょう患者は、健全者とは比べ物にならないほどの助けを必要とします。でも、じろじろ見られたり、視線をそら



されたり、「うわあ」なんて言われたりしたら…、助けを求めることはとても難しくなります。しょう害者を差別する人が減って、手を差しのべようとする人が一人でも増えて、誰もが暮らしやすい社会になって欲しいのです。

自分なりに考えてみました。差別する人たちが、しょう害者のことを分かっているのならば、しょう害者と同じような体験をすればいいのではないのでしょうか。車いすに乗ったり、アイマスクをつけて歩いたりすると、少しは理解できるでしょう。また、ビデオや本を見て勉強して、いろんなことを知ることも差別をなくすことにつながるでしょう。でも、それだけで差別がなくなるとは、どうしても私は思えません。きっと一番大切なことは、「差別をなくさなければならぬ」、または、「しょう害者に手を差しのべたい」という意識を、強く持つことではないのでしょうか。そんな意識を持つ人が、一人ずつ増えていけば差別が減り、しょう害者が安心して助けを求められる、そんな社会になっていくはずですよ。私は、決して気が強くもないし、勇気があるほうではありません。でも、しょう害者差別をなくしたいという思いは、人一倍強く持っています。だから、これから機会があれば、自分の思いをいろんな人に伝えていきたいです。

🌐🌐🌐🌐 心のキャッチボール ~ みなさんからの声・20 ~ 🌐🌐🌐🌐

〈 昨年末の学校評価(アンケート)・自由記述から [その7] 〉

○学校からの意見が、保護者の意見・意向に必ずしも沿うとは限らないと思うので、PTAが行う行事に関しては、保護者が十分に考える機会を持って実施されるべきだと思います。その点、学校側も早急でない対応をしていただきたいと思います。

→ そうですね。同じ家に住む家族でも、その人によって考え方や思いは違いますからね。ただ、私たち親・教師が考えるポイントは、ひとつ。『子どもの幸せ!』ということは、一致していると思います。いろいろな判断・実施をしなければなりません、私たちおとな自身の損得ではなく、『子どもの顔を思い浮かべながら考えたか、決めたか?』が大切なことです。

子どもたちの幸せのため、しっかりじっくり話し合い、考えていきましょう。

(*今回のご意見は、意味はわかるのですが、「いったい、何のことを指しているのかなあ…」と思いましたが、できれば、具体的に教えていただけたら、ありがたいなあと思います。

これからも、子どもの笑顔につながるよう、親も教師もともにがんばりましょう)

はな たかはなだいらしょう 花いっぱいの高花平小に…

～ ありがとうございます、お花をいただきました。春です… ～

「明るい、美しい学校に！」したいと、あちこちに花や球根を植えてきました。子どもたちや地域のみなさんに喜んでもらえたら…と思ったからです。昨年の春に比べ、本当に明るい感じになってきました。

先日も、1西の小川さんから『水仙の花』を、たくさんいただきました。バス通りや中庭に植えました。今、白い花が、素敵です。昨秋には、2丁目の若尾さんから『リュウノヒゲ』の苗をいただき、運動場の周囲へ植えました。少しでも、運動場の土砂が溝などへ流れ出ないように…。～ 地域のみなさま、ありがとうございます。～

